

チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	27_1/1_3	地域課題の解決に向けた動きを作る取り組み	那覇市
アイデア名(注2) (公開)	平常時から災害時へつなぐ近助～独居高齢者を近所で近助～		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	近助でWAKUWAKU首里チーム		
チーム属性(公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	8名		
代表者情報	津波 美由樹		
メンバー情報	氏名(公開)	新里 史子 上江洲 徹也 鎌田 耕 山戸 隆秀 山里 カズミ 屋宜 貢 稲嶺 安洋	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

地域の自治会活動は活発だが、加入率(約 3 割)は年々低下、高齢化も進んでいる。このため、地域とのつながりが弱い方や自治会未加入の方への見守りが不足しており、大規模災害発生時の支援体制が問題となっている。これは、命の問題であり、これから人生 100 年時代を迎える私たち自身の問題である。

<解決アイデアの内容>

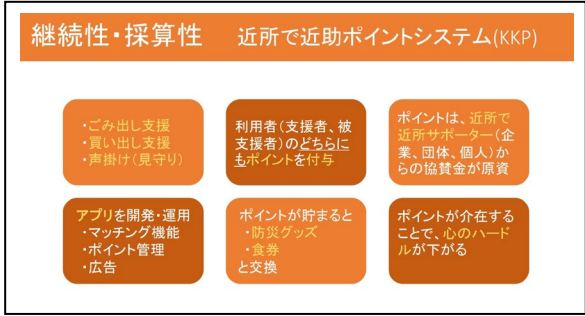
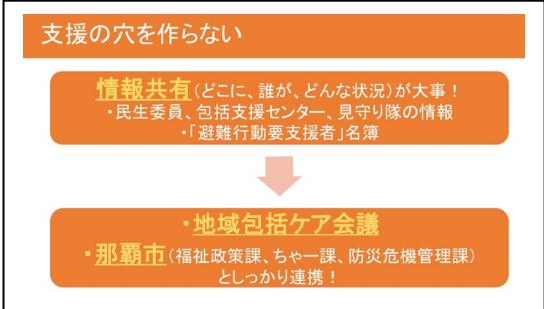
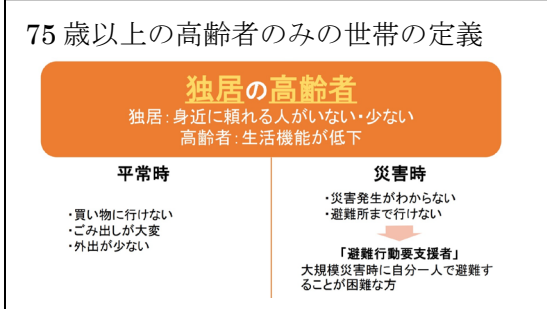
大規模災害時に一人で避難することが困難な方を、日常から顔が見える関係性を作り、大規模災害時の避難行動支援に備える。



1st ステップ

「75 歳以上の高齢者のみの世帯」が必要としている、「見守り」、「ゴミ捨て支援」、「買い物支援」といったサービスを「近所で近助ポイントシステム(略：KKP システム)」をととして構築する。

KKP システムで貯まったポイントで防災グッズや 2st ステップで行うイベントの食券等に交換。



1

ポイント

支援の穴を作らない→「避難行動要支援者名簿」の活用、民生委員、地域包括ケア会議への参加など、必要な人を見落とさないためにも情報の共有、行政との連携は必須

継続性・採算性→KKP システムを利用し、支援する側・受ける側の両者を利用者とすることにより、双方へポイントを付与。高齢者が利用する際に感じるという心のハードルを下げるができる。ポイントは防災グッズなどと交換。事務局の負担軽減にアプリを開発、運用。その資金源としては企業・団体・個人からの協賛金とし、そのインセンティブとして市や自治会などから表彰を行う。

2st ステップ

年に 2 回程度「野外映画上映会×防災グッズ体験泊」を開催する

- ・避難行動のシミュレーション（近助の関係を利用し、避難を助けてイベント会場まで避難）
- ・KKP システム利用者、子ども・大人・高齢者、誰もが参加して楽しめるイベントとしての映画鑑賞会
- ・KKP システムで交換した防災グッズの体験と防災キャンプ、避難所体験

1st ステップを行うことで生まれる

顔が見える関係

- ・「どこの誰か」わかる
- ・気軽に声が掛けられる

KKP 利用で貰ったポイント活用

- ・ポイントを防災用品と交換
- ・イベント時の金券や金券と交換

避難行動要支援者
へのアプローチ

野外映画上映会

防災イベント

既存のイベント



実際に大規模災害を想定して

- ・避難行動のシミュレーション
- ・交換した防災用品の使い方を体験
- ・防災食の試食
- ・避難所やキャンプの体験お泊り会

大規模災害時に備えて取り組むと

日常が幸せになる

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

城北小学校区の地域を公開されている情報からまちカルテ資料を作成

定性的情報

- ・統計那覇
- ・那覇市の世界遺産・文化財
- ・那覇市自治会情報
- ・那覇市小学校指定通学域情報
- ・那覇市立小学校児童数集計表
- ・那覇市アクションプラン
- ・タウンページ

定量的情報

- ・地域街歩き探検
- ・担当区民生委員からの聞き取り
- ・自治会長からの聞き取り
- ・自治会員の聞き取り
- ・PTA会長の聞き取り

城北小学校区の人・世帯数

項目	2010年	2020年	増減率
人口	~400	~460	+15.2% 増
世帯数	~100	~125	+2.5% 増

城北小学校区児童数人口

学年	人口
1年	~100
2年	~150
3年	~100

10年前の人口と比較して

項目	変化率
1人以下世帯	-5.5% 減
2人以上世帯	-5.5% 減
高齢者人口	6.7% 増

10年前と比べて
人口は少し増えて 102.5%
世帯数はだいぶ増えて 115.0%

データ分析の結果 **聞き取り調査の声**

独居: 身近に頼れる人がいない・少ない
高齢者: 生活機能が低下

独居の高齢者の増加

独居の高齢者

独居：身近に頼れる人がいない・少ない
高齢者：生活機能が低下

平常時

- ・買い物に行けない
- ・ゴミ出しが大変
- ・外出が少ない

地域見守り隊 など

福祉政策課、ちゃーがんじゅう課

- ・民生委員
- ・地域包括支援センター
- ・自治会

など

那覇市

災害時

- ・災害発生が分からない
- ・避難所まで自力で行けない

自主防災組織、まち協 など

防災機器管理課

3ナイ地域！

- ・まちづくり協議会
- ・自主防災組織
- ・地域見守り隊

「避難行動要支援者」

- ・マンパワーが足りない
- ・すぐに駆けつけられない
- 支援の関係ができていない

支援の穴を埋める組織がない！！

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

実現主体

- ステップ 1：那覇市小学校区まちづくり協議会
- ステップ 2：NPO

必要な資源：

ヒト（支援者）

- 首里第一民生委員児童委員
- 地域包括支援センター
- 坂道通り自治会（那覇市首里の自治会。1つの自治会でスモールスタートし、それを広げていく）
- 那覇市福祉政策課
- なは市民活動支援センター
- 地域包括ケア会議メンバー
- 那覇市社会福祉協議会

ヒト（被支援者）

- 1,500 人（対象地域の要支援者）。
開始当初は1～3%を対象とする。



支援の穴を作らない

情報共有（どこに、誰が、どんな状況）が大事！
 ・民生委員、包括支援センター、見守り隊の情報
 ・「避難行動要支援者」名簿



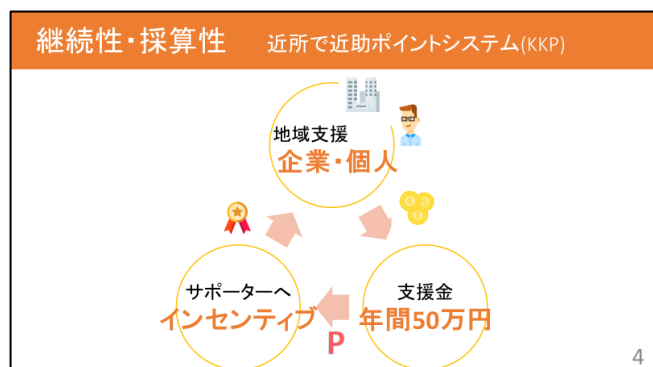
地域包括ケア会議
 ・那覇市（福祉政策課、ちゃー課、防災危機管理課）
 としっかり連携！

カネ

- 地域サポート企業から協賛金として50万円を拠出していただく。
※地域の祭りなどでは協賛として60～80万円を集めている額を参考とした。

モノ

- 地域サポート企業（★）へのインセンティブ
 - 市から表彰、地域パンフレット類への広告
 - 地元自治会からの感謝状（会報誌への掲載）
 - 地域小学校からの感謝状



● ポイントシステム

- 支援者と被支援者のどちらも利用者として、ポイントを付与する。
- そのポイントは防災グッズと交換できる。
- また、定期的を開催するイベントにおいて食事や防災グッズと交換できることとする。

